

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース)

留学(中間・結果)報告書

日本を出る前、私は将来「教育」を深く学ぶことについて、あまり考えたことがありませんでした。当時は、大学では数学や物理、化学等を専門的に学びたいと思っていました。しかし、アメリカへ10ヶ月間の留学をし、現地校の一生徒として高校生活をしている内に、自分の中で「教育」への興味・関心が大きくなっていきました。それは、私が通ったアメリカの高校と、元々日本で通っていた高校が、多くの点で異なっていたからです。

その一つとして、「勉強すること」の重要性が挙げられます。日本の高等学校では、基本的に「大学入学試験に合格すること」を見据えた教育を施します。従って、勉強量は必然的に増え、生徒たちは「高校とは、勉強する場所だ」と思うようになっていきます。中には「勉強することを強いられている」「勉強させられている」と考える生徒もいることでしょう。しかし、それはアメリカでは異なっていました。まず前提として、生徒は、自分の学びたい科目を自分で選択します。時間割も生徒一人一人異なっており、クラスのメンバーは毎時間変わります。さらに授業中も、先生は「生徒達に勉強させる」ことではなく、「生徒と共に楽しく授業を行う」ことを重要視しているように感じました。加えて、午後2時に終わる平日のスケジュールは、午後4時から5時に終わる日本の高校のものと比べると、大きく異なります。日頃の課外学習や課題の量も日本より格段に少なく、逆に夏期休業の長さは2ヶ月以上、冬期休業も1ヶ月と、日本よりも遙かに長い長期休暇を過ごしていました。これらの差異は、アメリカでの高等教育におけるゴールが、日本とは異なり、「大学への入学」だけにフォーカスを当てたものではないからだと考えました。また生徒たちも、日常生活において、勉強に対するストレスをあまり抱えていないように見えました。私は、この「勉強に大きな重点を置くか否か」について、日本では考えたことがありませんでした。出国前は、「高校生は勉強することが当たり前。一に勉強、二に勉強」とさえ考えていました。だからこそ、その差違を目の当たりにし、今の日本では考えられないような「アメリカの高校」を、身をもって経験できたことが、とても新鮮でした。10ヶ月に渡る Tahoma High School での学校生活は、私の留學生活の中で最も興味深い、最も大きな刺激の一つでした。

アメリカに渡り、日本とは全く異なる教育の在り方を経験したことで、私の中に、「世界の教育」への興味が生まれました。世界中のどの国にも社会があり、教育があります。そしてそれらの様式やスタイルは、国によって大きく異なるはずですが、アメリカの高校生活が私の予想と大きく違っていたように、この世界のどこかの国には、きっと私たちの想像もできないような「教育の在り方」があることなのでしょう。異なる教育には、どれも長所があり、短所があります。考える内に、私の中に一つの疑問が生まれました。「世界中の国々にそれぞれの教育スタイルがあるならば、それら全てを知った上で、本当にベストな教育とは、一体何だろうか。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

数多の教育スタイルの良いところを組み合わせ、悪いところを補い合えば、それを最良の教育として完成させられないだろうか。」加えて、教育は「教えられる世代」に直接影響します。これからの未来を担う次世代の人々に、最も大きく関わるのが「教育」なのです。だからこそ、私は近い将来、「本当に最良な教育」を見つけるために、大学で深く学び、考えたいと思いました。そしてそれを少しでも多くの次世代の人々に伝え、この国を、この世界をもっと良いものにしていきたいと思いました。

この10ヶ月間、色々なことを経験しました。楽しかったこと、悲しかったこと、辛かったこと、嬉しかったこと。多くを学び、多くを感じました。その中で、自分の将来について以前よりも深く、じっくりと考えることができました。「10ヶ月」で終わるのではなく、その先の私の人生にも大きく影響する、素晴らしい留学をすることができました。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

